

経営比較分析表（平成28年度決算）

岡山県玉野市 玉野市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	ド訓	救輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
61,226	10,895	非該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

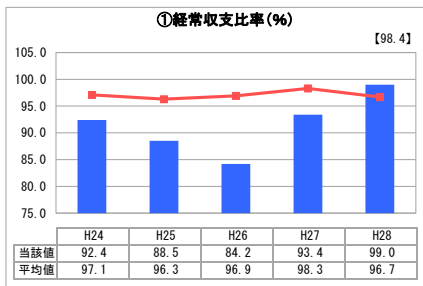
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
199	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	199
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
159	-	159

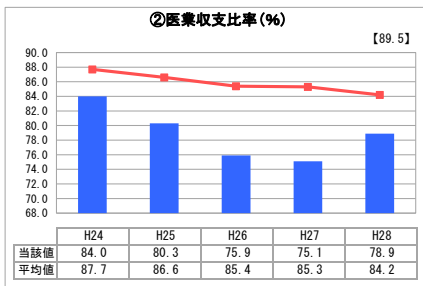
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

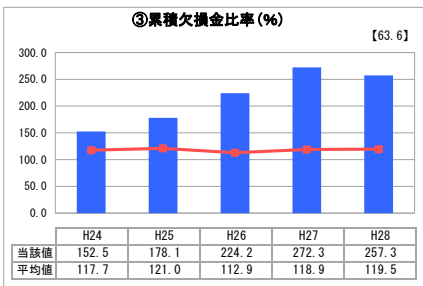
1. 経営の健全性・効率性



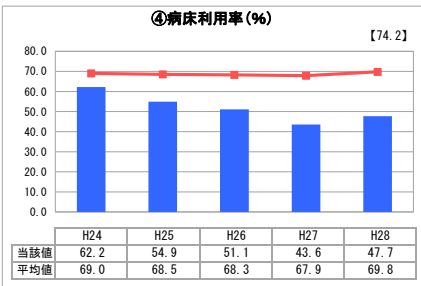
「経常損益」



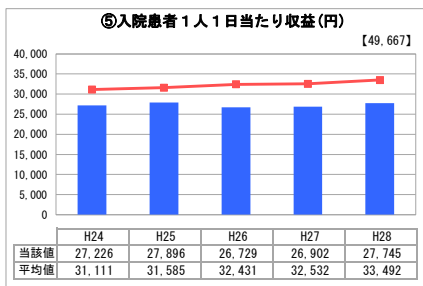
「医業損益」



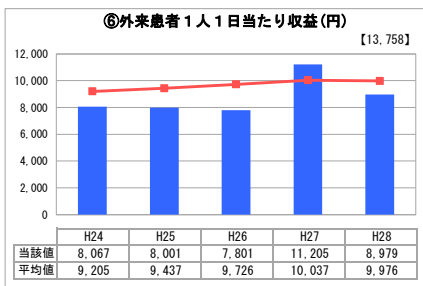
「累積欠損」



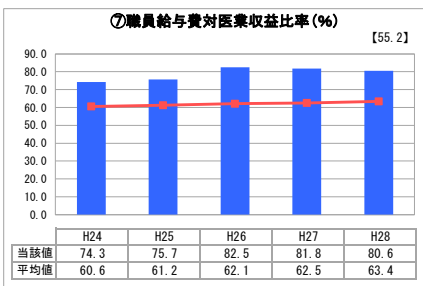
「施設の効率性」



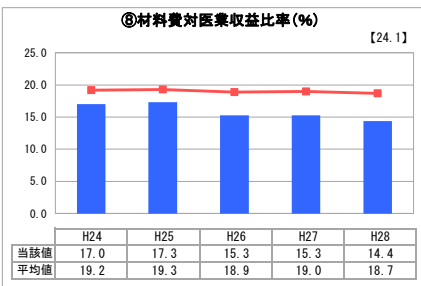
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

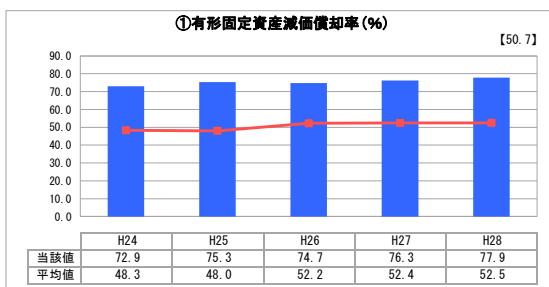


「費用の効率性①」

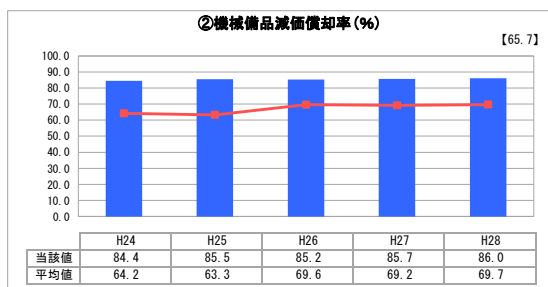


「費用の効率性②」

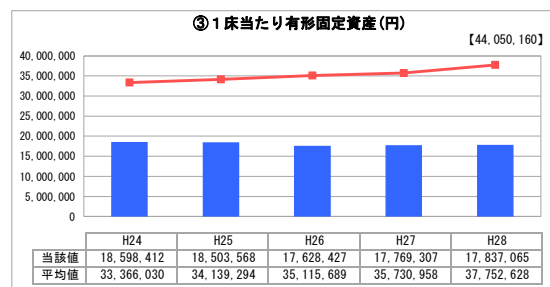
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

市内には当院を含め8つの病院が設置されているが、当院では、公立病院として救急医療、小児医療を始めとする不採算医療を担うとともに、地域急性期、回復期を中心に地域における中核医療機関としての役割も担っているところである。また、同一医療圏内には高度急性期機能を持った多数の病院が設置されており、高度治療を終えた患者が地域に戻って安心して療養できる場所として、バックベッドの役割も担っているところである。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当院の経営状況として、累積欠損比率が平均値を大きく上回り、多額の累積欠損金を計上するなど健全とは言えない状況である。経営指標では、経常収支比率において平均値を上回り100%に近い比率となっているが、医業収支比率では平均値を下回っており、他会計からの繰入金に依存した経営状況と言える。特に、費用面においては、職員給与費対医業収益比率が80%を超え、人件費の負担が課題となるなど、収入の確保と合わせて人員体制の見直しが必要となっている。一方で、収入面においては、平成28年度から患者目線に立った病棟機能の再編を行うなど、病床利用率や患者1人1日当たり収益の改善を図っているところである。

2. 老朽化の状況について

築40年以上が経過し、減価償却率において有形固定資産、機械備品いずれも70%を超え、施設の老朽化が進んでいる状況である。反面、1床当たり有形固定資産は平均値を大きく下回り、経営面における負担は軽減されているもの、利用者の安全性や医療の継続性を考慮すれば、施設の更新についても検討しなければならない状況である。

全体総括

施設の老朽化が進む中で、資産の大規模更新の時期が迫っている状況であるが、経営面においては大変厳しい状況が続いており、経営を継続するためにも抜本的な改革が求められているところである。そこで、平成28年度には民間医療法人との業務提携をスタートし、経営における抜本的な見直しを図っているところであり、地域医療の存続や施設の更新といった諸課題に対する取り組みをスタートさせたところである。このような状況の中、今後の地域医療の在り方を検討するなかで、地域医療の存続には周辺の医療機関との協力が不可欠であると考えており、連携・統合・集約といったあらゆる可能性について協議・検討を行っているところである。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。